
俺の贈ったゴボウが原因で、今川が桶狭間に行った事実

げんたろう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の贈ったゴボウが原因で、今川が桶狭間に行った事実

【Nコード】

N4609BA

【作者名】

げんたろう

【あらすじ】

「シリーズ2作目です。最初からご覧になったほうが分かりやすいです」

小十郎視点。今川義元が桶狭間に…逃亡。原因はゴボウ料理を拒否してのことだという。ちよつとまで、それはもしや俺が贈ったゴボウか？

最初ちよつと固いけど、所詮コメディです。

(前書き)

シリーズ2作目です。
短いです。

実は、片倉小十郎、木城の方と面識があったりした。

「義元さまは、われら家臣が全力をもってお留いたします」
「「「なにとぞ信用なされますよう」」」

半年ほど前、片倉小十郎景綱は今川家家臣と膝を突き合わせて会議をしていた。

このところ今川義元の動きに不穏なものがあると見て、様子見ついでの威嚇に来たのだ。

家臣たちの態度や言葉で判断する限り、今川家に上洛の意思はない。ただ、国主たる義元は……………。

「どうぞ我らを信用くださりませ」

涼やかな風とともに部屋に入ってきたのは、扇子で口元をかくした女だった。

「これはお方様」

家臣らがかしこまれば、女は扇子をヒラヒラと振った。
涼やかな美貌があらわになる。

「かしこまられるのは嫌いだといつも言っているでしょう」

「「「はっ」「」」」

「やれやれ」

女は上座に座ると小十郎に礼をとる。

「私は国主義元の側室、木城と申します。女だてらに政に口出しするなど、お怒りになられます？」

「いえ、そのようなことは…」

「それは重畳ちゅうじやう」

木城と名乗った女は、小十郎をまっすぐに見た。

「上洛に今はふさわしくありません。私も含めた家臣総出で義元の動きは止めてみせます。どうぞ、信用なさってくださいませ」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「今、伊達と敵対することに今川は何の益もありません。ご存知でしょう？」

「・・・・・・・・・・・・・・・・わかりました。信じましょう」

小十郎がそういうと、木城は肩のこわばりを解いた。

「片倉殿のことはこの今川にも聞こえております。なんでもたいそう滋養のある野菜を作られるとか」

「・・・・は」

「今川の領地にはとても珍しい野菜があるのですよ。ぜひ苗を持ち帰り、ご領地で栽培なさってみてはいかがでしょう」

「よろしいので？」

「ええ。今度ぜひ、片倉殿の野菜を送っていただきますわ」

木城の方は、国主の側室という立場に驕らない、気さくな方で、小十郎は好感を抱き、野菜談話に花が咲いた。

そして送ったのだ、ゴボウを。

『今川義元、ゴボウ料理を拒否し、桶狭間に逃亡』

聞いた時は耳を疑った。

あの時、ゴボウではなくネギにしておけば…。

（約束を守れずにごめんなさい）

木城の方が空に消えた時、聞こえた声は小十郎の気のせいかな。

「また、お逢い出来るでしょうか・・・」

返事は、ない。

(後書き)

次の更新は多分というか、絶対来週中旬です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4609ba/>

俺の贈ったゴボウが原因で、今川が桶狭間に行った事実

2012年1月12日17時49分発行